



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 50 号

R4.2.22

文責 中西 勉



### 今年度最後のサークル活動

昨日、今年度最後のサークル活動を行いました。本校のサークル活動は、基本的に児童が自分の入部している部で活動を行います。現在、愛知県に「まん延防止等重点措置」が取られているため、授業後の課外となる部活動は実施を見合わせています。しかし、サークル活動は、授業時数にカウントされる活動であるため、その最終日となった昨日は、感染対策を十分に講じた上で活動を行いました。

各部では、入部が延び延びになっていた4年生を温かく迎えたり、卒業する6年生に感謝の気持ちを伝えたりして、工夫を凝らした活動を行いました。新型コロナの第6波が収束に向かい、一日も早く部活動を再開できることを心から願っています。



▲【バレー部】顧問の話を真剣に聞く4年生



▲【女子バスケット部】先輩に感謝の気持ちを伝える



### シリーズ「北京オリンピック」③ ～その一蹴りにかける～

シリーズ第3回は、スピードスケート女子の高木美帆選手（以下美帆選手）に注目します。今回、美帆選手は、500m、1000m、1500m、5000m、パシュートの5種目に出場しました。そして、金メダル1個（1000m）と銀メダル3個（500m、1500m、パシュート）を獲得するという、前人未到大記録を打ち立てました。美帆選手は、前回2018年の平昌五輪の金・銀・銅メダルと合わせて、日本女子オリンピック選手として史上最多となる7個のメダルを獲得したわけですが、どうしてここまで強いのでしょうか。そのヒントは、美帆選手が今までに積み上げてきた練習に隠されているようです。

美帆選手が初めてオリンピックに出場したのは、2010年のバンクーバー五輪でした。当時中学3年生の美帆選手は、1000mと1500mに出場するも、それぞれ35位（最下位）・23位と全く振るいませんでした。4年後の2014年のソチ五輪は、姉の菜那選手が代表に選出される一方で、美帆選手は国内予選で敗れ、代表の座を逃しました。こうして悩める時期を経験しながらも、美帆選手は自分の滑りを徹底的に研究し、「納得できるまで考え抜く」という姿勢を貫きました。そうしてたどり着いたのが、一蹴りのエネルギーロスを最小限にする「省エネ滑走」だったのです。瞬発力を必要とする短距離も、持久力が鍵を握る長距離も、共に見事にこなす美帆選手の滑りには、その一蹴りに最大の秘密があるのです。トップアスリートとして自分の技術をとことん追求する美帆選手の姿勢には、大いに学ぶところがありますね。

